

## 植物多様性センターの「ヤツデに集う」

ヤツデは、雄しべが先に熟し、雌しべが後から熟す「雄性先熟」の花を咲かせます。雌雄の器官の熟すタイミングが異なるのは、同花受粉を避けて遺伝子の多様性を保つための戦略と考えられています。晩秋は昆虫の活動が鈍くなる季節ですが、豊富な花粉と蜜で、ヤツデの花は多くの訪花昆虫でにぎわっています。学習園では、伊豆諸島ゾーンと武蔵野ゾーン果樹林エリアの間の園路沿いでご覧になれます。



晩秋に咲くヤツデ：花粉を出した白い葯が目立つ雄性期



雄性期の花序を訪れるホソヒラタアブ



雄性期終盤：仲良く花粉や蜜を舐めるハエとアリ



5本の花柱が伸びた雌性期：花盤の蜜を舐めるクロヤマアリ